

# 平成28年度 総務委員会（後期） 行政視察報告書

1. 視察日程 平成28年11月1日（火）～11月2日（水）

2. 視察先及び視察事項

(1) 愛知県豊田市

『交通まちづくりの推進について』・『高岡ふれあいバスについて』

(2) 愛知県蒲郡市

『高齢者タクシー制度（高齢者足確保事業）について』

3. 参加者

委員長 勝間田 幹 也

副委員長 田 代 耕 一

委 員 芹 沢 修 治 高 橋 靖 銘 杉 山 章 夫

高 木 理 文 稲 葉 元 也

当局職員 宮 代 英 和（企画部企画課主幹）11月1日対応

勝 俣 昇（企画部次長兼企画課長）11月2日対応

事務局 勝 又 雅 樹（議会事務局議事課長）

#### 4. 視察内容

### ■ 『交通まちづくりの推進について』・『高岡ふれあいバスについて』

平成28年11月1日（火） 13:30～15:30 於：豊田市役所

#### 【豊田市視察先対応者】

豊田市議会副議長	牛田朝見
都市整備部交通政策課副課長	外山広光
〃 〃 計画・整備担当	鈴木英之
高岡支所地域担当課主査	外山稔洋
議会事務局事務局主査	梅村佳代子

#### 《視察研修の目的》

市民や企業と共働して総合的に推進する住民主導型のバスの運行事例の取り組みを研修することで、本市の地域公共交通形成（整備、拡充）の参考とする。

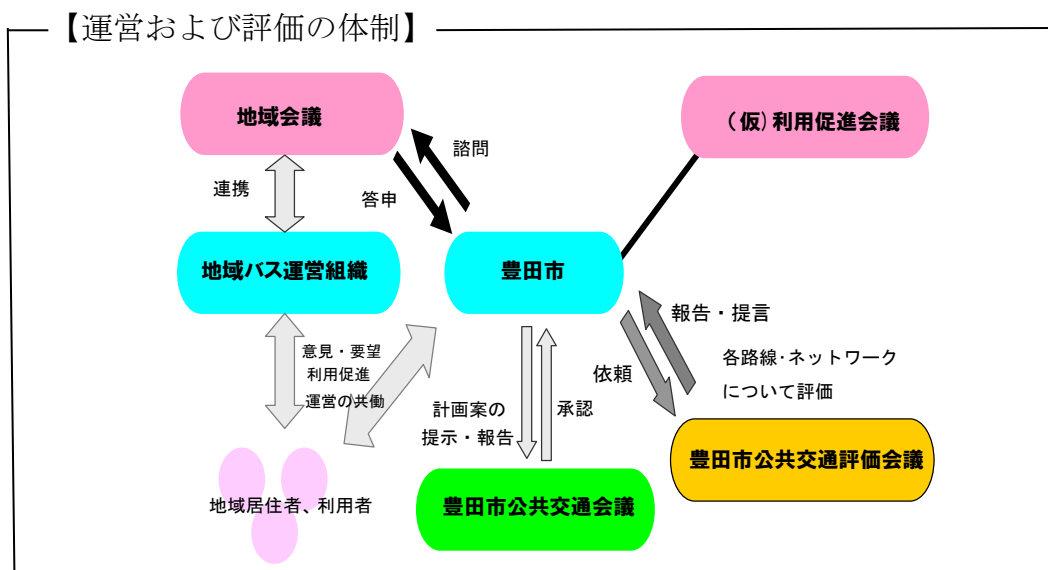
#### 《視察内容》

豊田市は、愛知県北部に位置し、トヨタ自動車が生産を置く企業城下町である。愛知県下で人口は名古屋市に次いで2位、面積は県内で最も広い中核都市である。その豊田市の地域公共交通の取り組みの『交通まちづくりの推進について』は公共交通基本計画に基づき、名鉄バス・旭バス・稲武バスの3社を再編・引き継いで発足した。豊田市駅から旭地区・稲武地区の内外を結ぶ、おいでんバス（おいでんとは三河地区の方言でいらっしゃいの意）と名鉄バスが市内を運行する路線バスの2つの基幹バスがある。これらのバスは合併した旧6町村を中心に運航されている。もう一つは各自治区の立ち上げた「ふれあいバス運営協議会」と交通事業者の組織

「豊田市生活交通運行事業者協会」と市の三者による運行協定により開始した地域バスがあり、今回は「高岡ふれあいバス」を視察研修した。この路線は名鉄バスの路線廃止後、公共交通空白地域の解消のため開始した高岡地区と名鉄の駅を結ぶ路線である。

この『高岡ふれあいバスについて』は、行政は運営協議会とバス運行共同企業体との間で協定を結び年間20万円の負担金を出している。路線は2路線で毎日運行、運賃は大人200円（中学生以上）、子供100円（小学生）、未就学児無料（保護者同伴が条件）他に回数券、定期券もある。地域協力金という形で世帯数に応じたお金を出し合い、このお金で定期券の一部補助を実施し利用促進を図っている。また、収益向上の取り組みとして車内広告用スペースに、広告掲載や時刻表広告を募集している。

平成27年度運行経費約8,000万円 国660万円 運行収入3,200万円 市負担金4,100万円となっており、市負担金の補助率も減少傾向にあり51.9%となっている。補助率においては平成26年度の56.9%を5%更新している。因みに運行開始時の平成22年度の補助率は67.3%であり、年々補助率は減少している。



(公財) 豊田都市交通研究所資料より出典

## 《考 察》

一般的には行政主導でコミュニティバスを導入するケースが多い。運行実態は、運行しても利用者が少なく、補助金が膨れ上がってしまっている事例が多く見受けられる。

しかし、今回研修した『高岡ふれあいバス』は自治区の「ふれあいバス運営協議会」と交通事業者の「豊田市生活交通運行事業者協会」と市の三者がそれぞれの役割を担って運営されている。住民が

主導で運行ルート・バス停の位置や利用促進のイベント等の開催などが大きな特徴である。また、11自治区から世帯数に応じて地域協力金が集められ利用促進に使われている点も住民がバスを利用しようという意識付けに繋がっている。今後、



豊田市視察研修風景

ICカード利用が可能になれば、なお一層サービス向上に繋がると感じた。

豊田市の事例は、住民が主導であり利用促進、意識付けをどう醸成していくか大変参考になる取り組みであった。今後、御殿場市の公共交通政策を立案するうえで役立てていきたい。



豊田市議会議場にて

## ■ 『高齢者タクシー制度（高齢者足確保事業）について』

平成28年11月2日（水） 9：30～11：10 於：蒲郡市役所

### 【蒲郡市視察先対応者】

蒲郡市議会議長	喚 田 孝 博
総務部次長兼交通防犯課課長	竹 内 正 樹
〃 交通防犯課課長補佐	竹 下 暁
蒲郡市議会事務局長	小 林 英 樹
〃 主事	市 川 剛 寛

### 《視察研修の目的》

公共交通空白地における高齢者の移動手段の確保のために実施されている事例を学び、今後、本市が予定している高齢者等タクシー及びバス利用料金助成事業制度を検証すべく、高齢者移動支援政策の参考とする。

### 《視察内容》

蒲郡市は愛知県南東部の渥美半島と知多半島に囲われた約47キロメートルの海岸線沿いに4つの温泉地を持つ観光地で、三河湾国定公園に指定されている。温暖な気候を活かしたフルーツ栽培や主要な工業には、製造業事業所のほぼ半数を占める繊維産業、漁業等も盛んで、海と山に囲まれた景勝地であることから、県内屈指の観光地でもある。

そんな蒲郡市においても公共交通の空白



蒲郡市視察研修風景

地帯が広がっている。市内の東西方向には、JRが4駅名古屋鉄道、路線バスの運行がされ公共交通は充実している。一方、市内北側は路線バス等の撤退もあり、公共交通空白地帯となっている。このため移動に制約のある高齢者の足確保について検討し、タクシー事業者と協力し『高齢者タクシー制度（高齢者足確保事業）』実施することとなった。

事業内容は満70歳以上の高齢者を対象とし、年間100枚を上限とし希望者にチケットを配布し運賃を3割引にしていた。3割の内訳は市が2割、事業者が1割。市の割引額は1,000円が上限としている。割引区間は乗車地、降車地ともに市内に限る。

割引タクシー制度は平成22年5月から実施していて、対象人口に対する利用割合は平成27年度16.5%であった。平成28年度の現時点の利用状況は、男女別利用率は、男性が23%、女性が77%で年齢別利用者は75歳から79歳が27%、80歳から84歳までが32%と他の年代より多く利用している。

利用者からは3割引でも割高との意見もあるが、利用者からは概ね使いやすく便利



蒲郡市議会議場にて

と好評を得ている事業である。しかし、今後高齢化に伴う対象者増加による財政負担の増大が懸念される。今後、利用状況を分析し、限られた予算の中で制度を維持すべく、対象年齢や割引率の見直しも必要となる。

## 《考 察》

高齢者の社会参加、自立支援に大いに役に立つ取り組みであり、運転免許証の有無にかかわらず利用できる点は評価出来る。その反面、年間100枚を上限とし希望者にチケットを配布しているが使い切れないのではと感じた、印刷コスト等、無

駄ではないかと思う。また、高齢化に伴う対象者増加もあり、将来的な財政負担の増加にどのように対処するのか大きな課題が残る。本市が今後取り組む高齢者等タクシー及びバス利用料金助成事業制度に大変参考になった。今後急速に進む高齢化に対し財政負担も含め先見性を持った対応が必要である。